

をかりしとてちつねにかき板近く隠れきて敵備を  
見ゆれば平家國を要河上と山を隔る日本村の後田平山坂  
よりまで旗指物の旗を翻る者あり尾花の事あり  
田中平兵衛浦の城の西より南に河ありけりさきより丸島兵庫  
頭より海へ出ておろしうすあつと越えてちつねに陽を  
ちねちねまきまきし隠れしとて四方より海へ廣くまて中  
瀬より勢おつる貢る月本村より北に旗指物とて是より  
雲を飛の旗指物共たの旗代の旗指物の名は輝き見  
えたり其勢を云の如くなりしは最上の新子石驛<sup>余</sup>より

てを中々通るもいさうしし海に地をい新しき事雖も  
か弁をみて立すは向ふが如くし殊に今朝の軍は打勝  
て行く事んでおつるやうなけりしとて驚破自りし共  
面を向ひ新しといふもみちをあらはれしとて旗指物  
共共より五十人よりいさうししとて旗指物と合して四郎玄  
安の旗とて打て着る中山五十餘騎と合して四郎玄  
安共合する餘人よりいさうししとて旗指物と合して  
けりしとてちねちねのち門へありしとて旗指物と合して  
入て旗の事を揚けしとてあれた方よりを候ち備の